

## THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



創立 1954年 3月 8日  
承認 1954年 3月 30日

例会日時 毎週月曜日  
12:30 ~ 13:30  
例会場 刈谷市新栄町 3 の 26  
刈谷商工会議所内  
事務所 TEL <0566>22-2111  
FAX <0566>25-2111  
メール kariyarc@katch.ne.jp  
ホームページ http://www.kariya-rotary.com  
会長 岡本 巧  
幹事 神野 公秀  
会報委員長 兵藤 文男

2009 ~ 2010年度 国際ロータリー John Kenny (ジョン・ケニー) 会長テーマ

The Future Of Rotary Is In Your Hands ロータリーの未来はあなたの手に  
(この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。)

## 第2675回例会プログラム

[当年度=35回目; 当月=3週目]

2010年(平成22年) 5月17日(月)

## 1. 例会……………〈司会:プログラム委員会〉

- 12:28 1. チャイム  
12:30 2. 点鐘……………〈会長〉  
3. 開会宣言  
4. ロータリーソング斉唱  
……………それこそロータリー  
5. 講師・ゲスト並びにビジター紹介  
6. 食事

- 12:45 7. 会長挨拶並びに会長報告  
8. 幹事報告  
9. 出席報告  
10. 委員会報告  
11. ニコニコボックス報告  
12. 次週並びに次々週のプログラムの予告  
(5/24) ……クラブフォーラム  
(国際奉仕委員会)  
講師 オイスカ東京本部国際協力部  
大木 雅敏 様  
(紹介者 加藤 真治 会員)  
(5/31) ……クラブフォーラム  
(環境保全委員会)  
講師 地区環境保全委員会  
委員長 鈴木 元弘 様  
(紹介者 井元 良彦 会員)

## 2. クラブフォーラム……………〈IT委員会〉

- 13:00 卓話 「大人のIT」  
講師 中部テレコミュニケーション株式会社  
コミュファ営業部集合第2グループ  
マネージャー 大政 勇 様  
(紹介者 兵藤 文男 会員)

13. 謝辞  
14. 点鐘……………〈会長〉  
15. 閉会宣言

13:30 16. 散会

## 出席

会員総数 93名 出席免除 24名  
出席義務者+免除者の内例会出席者 85名  
欠席 11名 出席率 87.06%  
前々回(4/27)の修正出席率 100%

## 会長報告

- 1) RIより加藤真治会員、市川裕大会員、神野公秀  
会員にポール・ハリス・フェローの認証品が届いて  
おりますのでお渡しをさせていただきます。

## 幹事報告

- 1) 次週5月24日に予定をしておりました5月度理事  
会を5月31日に変更とさせていただきます。関係の  
皆様はお間違いのないようよろしくお願い致します。

## 会長あいさつ

## 「農文化」と「食文化」

岡本 巧



「農業」は「食」を得るための生  
業である。

「食文化」は「農業」から導き出  
される最も凝縮された人間の本質的  
活動である。したがって、「食文化」  
は「農文化」を基本に発展し、農村  
社会の中で芽生え育まれてきた。

しかし、近代の都市社会の中では、「食」が独自の発  
展を遂げてきたかの様に受け止められ、その結果、「食  
文化」と「農文化」が分断され、「食文化」の基盤となっ

た「農文化」が消滅していった。さらに、「農文化」から乖離した「都市型食文化」は我々の生活様式と文化的価値観あるいは道徳と呼ばれるものを根本から変えてしまったのではないか。それを暗示する数字がある。我々日本人は、年間11.1兆円もの「食べ物」を廃棄している。量にして、約2,000万人の1年分の食料に匹敵する量である。食料自給率40%の国でこの様な現象が起きている。大量の食糧輸入に頼らざるを得ない国で起きているのである。この額はわが国の農業と水産業を合わせた総生産額（12.4兆円）に匹敵する。そして、北海道の農生産額のはぼ10年分に相当するのである。

新たな「農文化」の構築が地球環境を守り健全な農業を維持し、国民の或いは世界の人々の生命と健康を支える基盤となることは言うまでもない。

## クラブフォーラム

卓話

### 「大人のIT」

中部テレコミュニケーション株式会社  
コミュファ営業部集合第2グループ  
マネージャー 大政 勇様



本日は貴重な機会を与えていただき、誠にありがとうございます。

今やインターネットは一部のマニアのものではなく、老若男女多くの方が利用しています。

この理由としては、接続環境の高速化とサービス内容が競い合って進歩し、より使いやすく便利なサービスが数多く現れたことが挙げられます。特に光ファイバー等の高速大容量回線を活用したサービスは、生活の中でのインターネットの活用領域を大きく広げています。

インターネットのサービスとしてよく利用されているものに、電子メールがあります。今や携帯電話でもおなじみですが、パソコンを使った電子メールは、大きなファイルを添付できるのが特徴です。

大きくプリントできる子供の写真を、遠方のご親戚に簡単に送信することもできます。業務の上でも様々な種類のファイルを送受信できるので、ビジネスシーンも大きく変わり、効率化に寄与しています。

もうひとつの代表的な使われ方に、ホームページの閲覧があります。世界中の企業、団体、個人のページから情報を入手できるものですが、表現力が日々進化しています。以前は文章と写真だけのものが主流でしたが、回線の高速化に伴い、動画を多用したものが増えてきました。今ではさらに多彩になり、商品を立体的に表示するなどの高度な技術を用いたものもあります。

次に、音声や動画を楽しむことのできるサービスについてですが、ダウンロードサービスの利用により、パソコンに必要な情報を一旦取り込んで、後で視聴することができます。また、テレビに回線を接続し映像を見られ

るものもあります。

インターネットは、便利な一方で直接的なコミュニケーションの阻害等、弊害も指摘されていますが、上手にえば大変便利なものであると確信しております。仕事や用事を効率化し時間を節約できますので、その分、人と人とのコミュニケーションにも時間を持つことができると思います。

私のお話がわずかでも皆様の参考になれば幸いです。本日は、ありがとうございました。